

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.15

今年は、例年より短めの夏休みです。本来ならば、各学年国語科の「ともしび」「本だな」の作品の仕上げにいそしんでいる頃です。今年度、両コンクールともなくなってしまいましたので、「作品を書くコツ」「本好きになるきっかけ」になりそうな本を紹介いたします。学校外にもいろいろなコンクールはありますので、挑戦してみてください。

『めんどくさがりのきみのための 文章教室』 はやみね かおる

作者の「はやみね かおる」先生のお名前、聞いたことありますね！なつかしいですね。小学生の時によく読んだのではないのでしょうか。「都会のトム&ソーヤ」「名探偵夢清志郎」などなど。その先生が、書いた本ですから、面白いこと間違いなし！です。まず、「めんどくさがりな人ほど、文章の才能がある」と最初に書いてあります。どうですか？あの大ベストセラー作家のはやみね先生がおっしゃるのですから、信じて大丈夫です。そして、本文は、主人公「文岡」君、10万回くらい生きた猫「マ・ダナイ」を中心に、一問一答形式で進みます。もちろん、答えるのは猫の「マ・ダナイ」です。

一問一答ですから、そもそも、一文は短く、わからないことに答えてくれるわけですから、完璧です。「書き出しはたった2種類から選ぶだけ」夢のようなテクニックですねえ。試してみないほうはありません。この一冊を読み終えたあなたは、小説を書けるようになっているかもしれませんよ！



『あるかしら書店』 ヨシタケ シンスケ

当代きっての売れっ子絵本作家、ヨシタケ シンスケさんの作品です。例えば目次。「作家の木の育て方」「お墓の中の本棚」「本の降る村」「本が四角い理由」えっ！そんなこと考えたこともない、そんな話題が、あのおなじみのほのぼのとしたイラストと文章で書かれています。パラっとめくってみてください。どこから読んでも大丈夫。面白いこと間違いなし！さあ、私もパラっとめくってみると・・・。「読書草」その地方は5年に一度、あらゆる生物がいっせいに本を読み始める「読書現象」が起きることで有名です。とあり、リスや、小鳥、ラッコにカニ、犬に、赤ちゃん、みんながしみじみ本を読んでいるイラストが添えられています。

本を好きになるきっかけは、人さまざまです。有名な作家北 杜夫さんも、大学生になるまであまり本を読んだことはない、と言っています。でも、読まないのはもったいない！あんなに不思議な世界が、掌の中にあるのですから。いつか、大好きな本と出会えますように！

